

JICA 英国事務所

英国援助情報ヘッドライン

15 April 2006

Vol. 11

今回のトピック

英国会計検査院報告書：災害支援として NGO 等の援助機関に供与された資金について DfID はもっとモニタリングし、その何割が被災者に届き、何割が銀行口座に残っているかを明らかにすべきと指摘。(1 ページ)

2005 年英国のネット ODA の暫定値が発表され、2005 年の英国 ODA は 59.16 億ポンドで、対 GNI の 0.48%。2004 年に対しては実績で 35% の増加。(2 ページ)

イラク南部バスの水道訓練センターが完成。DfID のインフラプログラム資金によるもの。(2 ページ)

ベン開発相がインドや中国のエネルギー需要が増せば過去に我々が犯したような過ち、つまり人権や統治を無視してでもエネルギー需要を満たすために行動するだろうと懸念を表明。(4 ページ)



From: 英国事務所長

<ニュース>

DfID がこれまで支援した研究の一覧がウェブサイト公表された。新たに設けられたサイトでは過去の 6000 あまりの研究について題名、国、主な結論、研究主体（組織）が閲覧できる。分野としては農村、保健、社会科学、教育、インフラ、都市開発などである。ウェブアドレスは www.research4development.info（3月31日）

DfID は災害リスクの軽減に関する政策提言書を発表した。提言書では DfID の業務における災害リスクの軽減や国際的なシステムにおけるリスクの軽減について記載されている。（3月30日）

世界水の日を前に DfID は水分野における協力実績を発表した。それによると 2003/04 年は 2.2 億ポンド、2004/05 年は 2 億ポンドである。DfID はサブサハラ地域の水セクターへの支援を倍増させ、今後 2 年間で毎年 9500 万ポンドをこの地域に振り向ける。（3月21日）

アフリカ委員会報告書発行の 1 周年を記念して英国政府は委員会提言の実施状況を発表した。それには IMF による債務削減、予防接種のための国際ファシリティー（IFFIm）の設置、国連平和構築委員会と汚職防止のための国連コンベンションなどが成果として挙げられている。（3月9日）

WTO の最貧国グループの座長であるザンビア通商貿易工業大臣がロンドンを訪問し、WTO 香港閣僚会合で貿易障壁撤廃の議論はある程度進展したものの、まだ途上国産品に対する障壁は残っていると指摘する一方で、引き続き多国間の協議の必要性をアピールした。また、DfID の貿易に関する技術協力に触れ、それによって得た知識にて例えば原産地に関するルールについて途上国も独自の提案を示すことができたと評価した。DfID の協力姿勢について以前は「お説教」調であったが、最近はアフリカ委員会報告書のように問題解決型となっていると述べた。（3月6日）

アジア津波災害に対する DfID の人道・資金協力の会計検査院報告書が発行された。報告書は災害支援として NGO 等の援助機関に供与された 5000 万ポンドについて DfID はもっとモニタリングすべきと提言し、その何割が被災者に届き、何割が銀行口座に残っているかを明らかにすべきと述べている。それを受けて DfID は援助機関に対して未執行額を返還するよう要請している。報告書は <http://www.nao.org.uk/pn/05-06/0506803.htm> に掲載されている。（3月1日）

<プレスリリース>

DfID は 2005 年のネット ODA の暫定値を発表した。2005 年の ODA は 59.16 億ポンドで、対 GNI の 0.48% となった。2004 年に対しては実績で 35% の増加となり、対 GNI 値でも 3.8% の増加となった。増加のきっかけとなったのは債務削減で 11.53 億ポンドが対ナイジェリア、6.73 億ポンドが対イラクであった。(3月31日)

旱魃に見舞われているソマリア向けに英国は 500 万ポンドの人道支援を行う。その内の 300 万ポンドは WFP 経由での食糧援助、200 万ポンドは国際赤十字による水供給と緊急医療支援にあてられる。(3月30日)

ガーナのキンタポ保健衛生研究所とロンドン大学熱帯医学・衛生研究所の共同研究にて母乳のみを与えている新生児の死亡率が他の栄養を与えている新生児よりも 4 分の 1 も低いことが判明した。この研究には DfID が資金援助を行っている。(3月26日)

DfID が 4000 万ポンドを投入したイラク・インフラ・プログラムの一つであるイラク南部バスラの水道訓練センターが完成した。このセンターではイラク南部 4 州の技術者の訓練を行う。さらに DfID は 2006 年夏までにバスラ市民 50 万人に飲料水供給のためのインフラ整備を実施する。イラク・インフラ・プログラムではイラク南部の電力と給水インフラの改修とイラク全体のエネルギー戦略を世銀など他ドナーと共に支援している。(3月20日)

インドの最貧州 (Uttar Pradesh、Bihar 等) の基礎医療と教育のために DfID・ユニセフ・パートナーシップにて 7500 万ポンドの追加拠出が表明された。このパートナーシップにより、DfID のインド国別援助計画である就学率や教育の質の向上などが達成され、貧困削減に寄与する。(3月14日)

英国は国連に設置された中央緊急援助基金 (CERF) へ毎年 7000 万ドルを払い込む。これは単独ドナーとしては最大額である。CERF には 22 のドナーが合計で 1.93 億ドルの拠出を表明している。ベン開発相は現在ケニア、エチオピア、ソマリアで発生している食糧危機に対してこの基金での対応を促した。(3月9日)

英国は 1100 万ポンドをマラリア、眠り病、シャーガス病対策に拠出する。そのうち 650 万ポンドは高額すぎるもしくは時代遅れとなった薬品の研究開発に、450 万ポンドは WHO、世銀、ユニセフ、UNDP との連携で研究のほかに予防とコントロールのためのトレーニングに使われる。(3月9日)

ベン開発相はパリでのスーダンコンソーシアム会合においてスーダン和平の歩みが遅いことに対する懸念を表明した。英国はスーダンの開発支援に今後 2 年間で 2.5 億ポンドを表

明し、その内の4000万ポンドが人道共同基金、2000万ポンドがAUスーダンミッションへ、1700万ポンドがマルチドナー信託基金へ払い込まれる。(3月9日)

英国は農業において研究開発の成果を実施に移すために1億ポンドを配分した。まずは3750万ポンドを過去30の研究成果の実践への適用に使う。選定基準としては農民の収入増加、農村社会の貧困削減、環境負荷の軽減、食糧増産である。(3月9日)

英国は抗結核薬の開発のためのグローバル連合に650万ポンドを拠出する。オランダとアイルランドも資金を拠出し、新薬開発にて治療期間の半減を目指す。(3月7日)

英国はガーナの貧困削減財政支援に3年間で最大で1.2億ポンドを拠出する。この資金は主に保健医療、教育、給水、インフラに使われる。英国は2003年から合計で9000万ポンドの財政支援をガーナに行っており、今回の決定はそれを上回るもの。(3月3日)

英国とルワンダは貧困削減パートナーシップのMOUに署名した。MOUではある条件(MDG達成やグレートレイク地域の治安安定)が満たされれば英国はルワンダに10年間で最低4.6億ポンドの資金供与を約束するものである。現在でも英国はルワンダに毎年4600万ポンドの援助を行っており、そのうち3100万ポンドは財政支援である。(3月1日)

英国は早魃のケニアに対する人道支援として1500万ポンドを供与する。内訳はWFP経由の食糧援助として1000万ポンド(22.3万人に6ヶ月間の食糧を供給)、ユニセフ経由で200万ポンド(7.3万人の栄養失調の幼児、7600人の妊婦への栄養補給、46万人の児童への医療サービスの提供)、300万ポンドはNGO経由の支援である。(3月1日)

<スピーチ>

ブレア首相

アジア開発国際会議(Asia 2015)の基調演説にてアジアの課題(人口増加とそれに伴う水資源不足、政治や宗教に起因する紛争)に触れ、それには強いリーダーシップ、EUによる戦略的な対話、官民パートナーシップや市民組織の構築、アジアの成長を支えるクリーンテクノロジーなどが必要と述べた。(3月6日)

ベン開発相

アジア開発国際会議(Asia 2015)の基調演説にてアジアの課題として社会からの障害と不平等、最低限の社会サービスの提供(教育、医療、給水)、持続的な自然資源の活用、災害対策、統治を挙げ、解決策として援助の質の向上が必要であるものの、アジアではそれ

はごく一部（中国やインドではわずか1%）であり、援助以外の他の手段の活用も必要と述べた。（3月6日）

開発白書に関する最後の演説にて今日のグローバルイシューとして内戦、テロ、汚職、気候変動などをあげ、こういった課題に対応できる新たな国際的なシステム構築の必要性和、それを肥大化した現在のシステムに付け足すべきではないと強調した。例えば資源管理に関しては英国の主導で Extractive Industries Transparency Initiative が設置され、初めてナイジェリアの石油・ガス収入に関する会計監査を行った反面、インドや中国はこのようなグループに属していないために、今後エネルギー需要が増せば過去に我々が犯したような過ち、つまり人権や統治を無視してでもエネルギー需要を満たすために行動するだろうとの懸念を示した。援助に関してはインドとマダガスカルへの援助額が同額であることを指摘し、二国間援助におけるアンバランスを多国間援助によるバランスにて補うことへの期待を示した。国連については国連の一体化、代表者、予算、プログラム、支出の一元化が必要と述べた。英国としてはパイ・マルチにこだわることなく援助資金を最も効果的に使える機関へ拠出すべきと述べた。（3月14日）

以 上